

大阪ガスの藤原です。

本日は、お忙しいところ、当社の2023年3月期決算の説明会にご参加いただきありがとうございます。

また平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、23年3月期決算について、お手元の資料または当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

3ページをご覧ください。

### ■ P3 決算のポイント

最初に、決算のポイントをご説明します。

- ① 23年3月期は、フリーポート LNG 液化基地が停止し、同時期に LNG の市場価格が高騰していたことなどもあり、【国内エネルギー事業】は大幅な減益となりました。一方で【海外上流事業】では、エネルギー取引価格の高騰を追い風に利益を伸ばすことができ、【ライフ&ビジネス ソリューション事業】においても着実に増益したことで、連結利益の落ち込みを一部回復することができ、ポートフォリオ経営が一定程度、機能したと考えております。
- ② 24年3月期については、フリーポート LNG 液化基地は既に運転を再開しており、またタイムラグ差損益も改善することなどから、反転増益を見込んでいます。
- ③ ROIC についても、23年3月期は主に NOPAT の減少により低下したものの、「資本効率を意識した事業推進」は社内できちんと浸透してきており、中期経営計画の最終年である24年3月期は目標である5%程度を達成したいと考えています。
- ④ 財務健全性については、23年3月期の期中には高騰する LNG を代替調達した影響などで一時的に低下しましたが、期末には、中期経営計画で示す水準まで回復しており、24年3月期も同水準を維持する見込みです。
- ⑤ 最後に株主還元についてです。当社は安定配当を基本に据え、利益成長に伴う増配で株主様へ応えていくことを基本的な方針としています。エネルギー需給逼迫や価格高騰など不透明な事業環境が続きますが、着実に利益を伸ばし、24年3月期も5円の増配を目指します。

以上が、決算のポイントとなります。

続いて、決算数値について順にご説明します。

### ■ P4 23.3 期実績の対前年差のポイント

- 4ページは、23年3月期実績の対前年差の概要です。
- 売上高は、国内エネルギー事業でガス及び LNG の販売価格が高めに推移したこと、海外エネルギー事業で米国及び豪州の上流事業の販売価格が高めに推移したことなどにより、前期に比べて+6,839億円増収の2兆2,751億円となりました。
- 経常利益は、フリーポート LNG 液化基地の停止に関連する損失などにより、前期に比べて▲378億円減益の756億円となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、フリーポートに関連する損失などにより、前期に比べて▲733億円減益の571億円となりました。前期に繰延税金資産および法人税等調整額を計上したことの反動等により、減益幅が大きくなっています。
- なお配当額は、当初計画通り2.5円増配の60円を予定しています。

### ■ P5 24.3 期見通しの対前年差のポイント

- 続いて5ページは24年3月期見通しの対前年差の概要です。
- 売上高は、原料調達価格の低下に伴い、国内エネルギー事業のガス販売単価が低下することなどにより、前期に比べて減収となる見通しです。
- 経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、フリーポート LNG 液化基地の運転再開、タイムラグ差損益の改善などにより、23年3月期に比べて増益となる見通しです。
- ROIC は、中期経営計画の5%目標の達成を見込んでおり、配当額は5円増配の65円を目指します。

#### ■ P6 フリーポート LNG プロジェクト停止に関連する損失について

- 6ページは、フリーポート LNG 液化基地の停止影響をまとめています。
- 昨年6月の火災以降、液化基地が操業停止したことに関連する損失は、全体で▲1,477億円となりました。
- 【国内エネルギー事業】では、当社顧客向け LNG の代替調達の費用や、他社向け販売に関連する各種契約の対応損失等により▲1,317億円の損失となりました。また、【海外エネルギー事業】ではオーナー側利益の逸失などにより、▲144億円の損失となりました。
- なおフリーポート液化基地は今年2月以降に順次再開し、当社の LNG は量・時期ともに予定通り、引取ができています。

#### ■ P7 23.3期実績の対前年比較

- 以降の3ページでは、経常利益の差異理由をセグメント別に分解して説明しています。
- 7ページは、23年3月期の前年差▲378億円減益の内訳を示しています。
- 【国内エネルギー事業】はフリーポートの停止影響等で前年より▲714億円の減益となりました。
- 一方で、【海外エネルギーセグメント】はサビンシェールガスプロジェクトや Osaka Gas Australia の上流事業の増益で前年より+253億円の増益となりました。
- 【ライフ&ビジネスソリューション事業】においても、Jacobi や都市開発事業の増益により、前年より+57億円増益となっています。

#### ■ P8 23.3期実績の対前回見直し比較

- 8ページは、23年3月期実績と、2月に公表した前回見直しとの比較です。
- LNG 販売価格の上昇による LNG 販売益の拡大や、円高などによるガス事業の増益、ライフ&ビジネス ソリューション事業での増益などにより、前回見直しに比べて296億円の増益となりました。

#### ■ P9 24.3期見通しの対前年比較

- 9ページは、24年3月期見通しと23年3月期実績との比較です。
- フリーポート LNG 液化基地の運転再開やタイムラグ差損益の改善などにより、【国内エネルギー事業】で大幅に増益となる見通しであり、全体で前年より833億円の増益を見込んでいます。

#### ■ P10 成長投資実績と見直し

- 10ページは成長投資と財務健全性を示しています。
- 23年3月期は、1,722億円の成長投資を行いました。【国内エネルギー事業】では発電所など、【海外エネルギー事業】では北米上流事業の開発など、【ライフ&ビジネス ソリューション事業】では都市開発事業などに対して、主に投資しました。
- 期末時点の財務健全性指標は、中期経営計画で示している水準「自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度」を確保しています。

以降は説明を割愛いたしますが、

11 ページからは、23 年 3 月実績の前年との比較、

17 ページからは、23 年 3 月期と 2 月に公表した前回見通しとの比較、

23 ページからは、24 年 3 月期見通しと 23 年 3 月期実績との比較を記載しておりますので、ご確認ください。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

**注意事項：**

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。